

平成14年11月6日

鉄道会社5社が新型券売機を共同開発

～お客様にとって利用しやすい券売機を開発、平成14年12月から導入します～

小田急電鉄株式会社
京王電鉄株式会社
西武鉄道株式会社
東京急行電鉄株式会社
東日本旅客鉄道株式会社

鉄道会社5社〔小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区、社長：北中誠）、京王電鉄株式会社（本社：東京都多摩市、社長：三枝正幸）、西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：戸田博之）、東京急行電鉄株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：上條清文）、東日本旅客鉄道株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：大塚陸毅）〕では、このたび新型券売機を共同開発し、平成14年12月から各社の駅に順次導入を進めていきます。

今回の新型券売機は、今後各社の券売機が順次更新時期を迎えるのを機に共同開発をしたもので、「より多くのお客様にとってより一層利用しやすい券売機とする」ことを開発コンセプトとしています。

基本仕様を共通化することで、お客様にとっては、どこの駅でも同じ操作で乗車券を購入できるようになるほか、事業者にとっても量産効果によるコストダウンを図ることができるというメリットがあります。

新型券売機の主な特徴は、大型15インチタッチパネルを採用するとともに、券種選択がしやすい画面構成としました。また、目の不自由なお客様にも使いやすいように、従来よりも大きくはっきりとした配色の数字ボタンや音声による情報案内をとり入れ、より一層バリアフリーに対応した設計とし、硬貨投入口も広くなり、硬貨を投入しやすい形状としました。

なお、こうした券売機など駅務機器の共同開発は、鉄道会社では初の試みとなります。

導入に先立ち、11月11日（月）からJR新宿駅南口でフィールドテスト（現地試験）を実施する予定です。

以上

新型券売機の特徴について

大手鉄道会社5社の共同開発により、お客様に使いやすい券売機を提供します。



フィールドテスト機外観

特徴

大型15インチタッチパネル採用

次世代にふさわしい明るく鮮やかな画面でお客様にアピールします。

フィンガーナビゲーションの採用

目の不自由なお客様の手を数字ボタンまで誘導します。

数字ボタンの大型化

従来よりも大きなボタンと見やすい配色で弱視のお客様にも使いやすくなりました。

投入口の形状変更

間口の広い形状とし硬貨を適当に滑らせるように投入でき、お客様が入れやすくなりました。

2段式け込みの採用

券売機下部に切り込みを入れ車椅子のお客様が体をより近づけることが可能になりボタンに触れやすくなりました。

見やすい使いやすい接客画面



ボタンと文字の大型化

文字を大きくはっきりと表示し高齢のお客様にも読みやすくなりました。また、ボタンが大きくなることでより押しやすくなりました。

視認性を考慮したハイコントラストカラー

文字とボタンのコントラストを高めつつ自然な色彩となる黒字に白地を採用し視認性を高めました。

お金先入れ時にボタンの色と形が変化

ボタンの色と形の変化によりお客様に購入可能口座をアピールします。また、右下の切り欠けにより色弱のお客様も視認しやすくなりました。

券種ボタンのタッチパネル化

券種選択ボタンを同一画面内の左側に配置し、券種選択が容易となるような画面構成といたしました。

フィールドテスト機画面